

# 都道府県別抗菌薬使用量統計

○本データは、診療、調剤時に発生する診療報酬明細書、調剤報酬明細書をもとに集計しています。医療費公費負担制度受給者のデータなどが含まれないことがあり、正確な使用量を示すものではありません。データの取得時期により、これまでの公表値と変更がある場合がございます。また、データソースが異なるため、販売量サーベイランス (<https://amrcrc.jihs.go.jp/surveillance/020/20190902163931.html>) とは数値が異なります。

○表記されている数値は、人口と薬剤ごとのDefined Daily Dose (DDD) で調整した『標準化使用量』を表しており、これをDID (DDDs/1,000 inhabitants/day) と呼びます。(参考：[https://www.whocc.no/atc\\_ddd\\_index/](https://www.whocc.no/atc_ddd_index/))。DDDは2022年1月時点のものを使用しております。

○人口は、総務省統計局の人口推計 (<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/>) を利用しています。

○WHOのATCコードJ01に該当する薬剤を抗菌薬と定義しています。

○AWaRe分類については、WHOの定める当該分類のうちJ01に分類される全身に使用する抗菌薬のみを対象としています。  
([https://amrcrc.jihs.go.jp/surveillance/030/AWaRe\\_bunrui\\_2024\\_ver3.pdf](https://amrcrc.jihs.go.jp/surveillance/030/AWaRe_bunrui_2024_ver3.pdf))

○その他、抗菌薬集計に関する用語に関しましては、こちらをご参照ください。  
([https://amrcrc.jihs.go.jp/surveillance/jsac\\_glossary.pdf](https://amrcrc.jihs.go.jp/surveillance/jsac_glossary.pdf))

○注意事項

・『抗菌薬種類 (ATC 3)による集計』の各グループに含まれるATCコードは以下となっています。

ATC分類の詳細については [https://www.whocc.no/atc\\_ddd\\_index/](https://www.whocc.no/atc_ddd_index/) を参照してください

ペニシリン以外のベータラクタム系: J01D (その他のβラクタマーゼ系抗菌薬) ※カルバペネムなども含む

マクロライド・リンコサミド・ストレプトグラミン: J01F (マクロライド, リンコサミド, ストレプトグラミン)

キノロン: J01M (キノロン系抗菌薬) ※ナリジクス酸やピペミド酸を含む

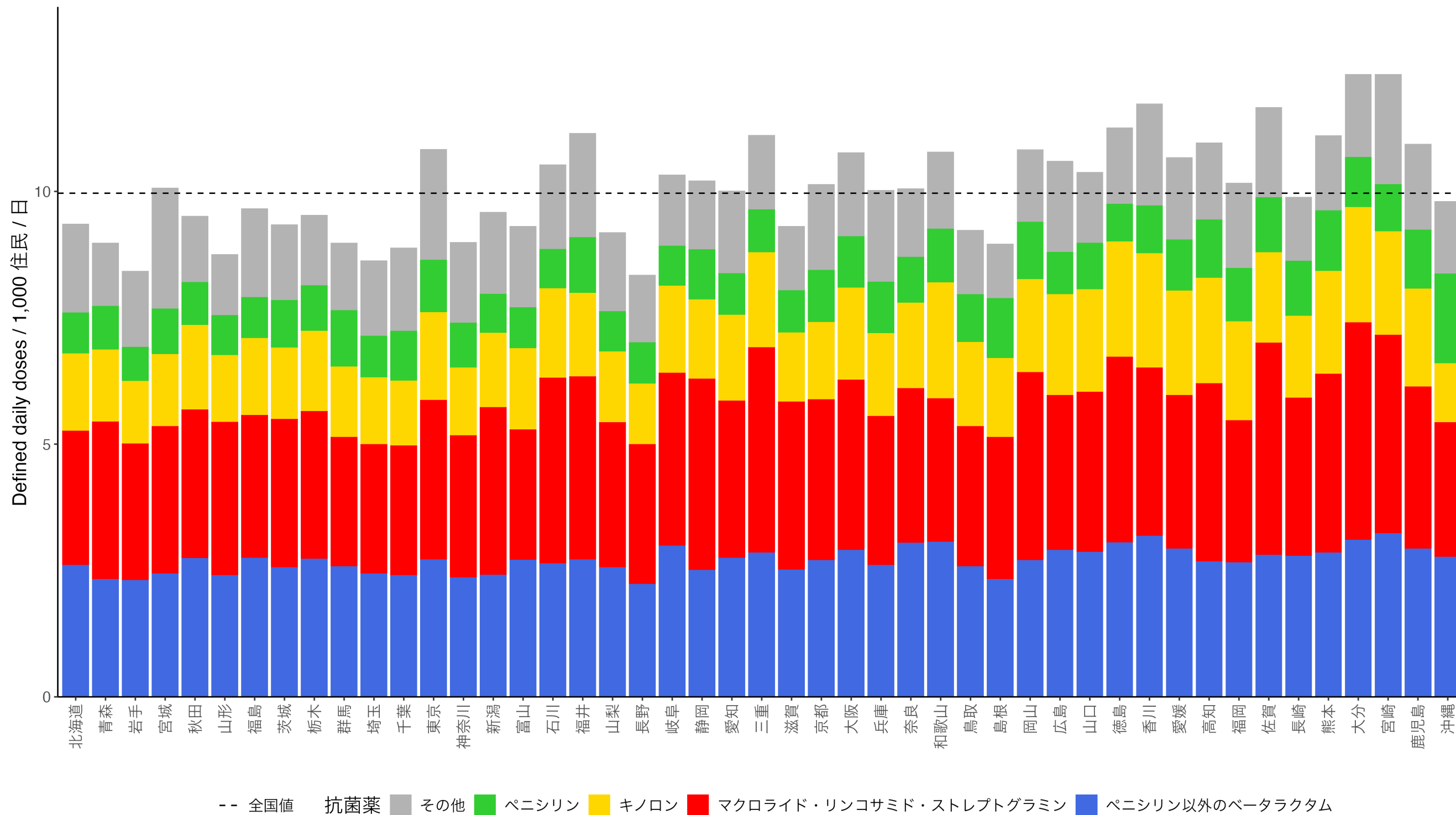
ペニシリン: J01C (ベータラクタム, ペニシリン) ※βラクタマーゼ阻害剤との合剤も含む

(※) 本データ解析は、以下の研究に基づき実施されたものである。

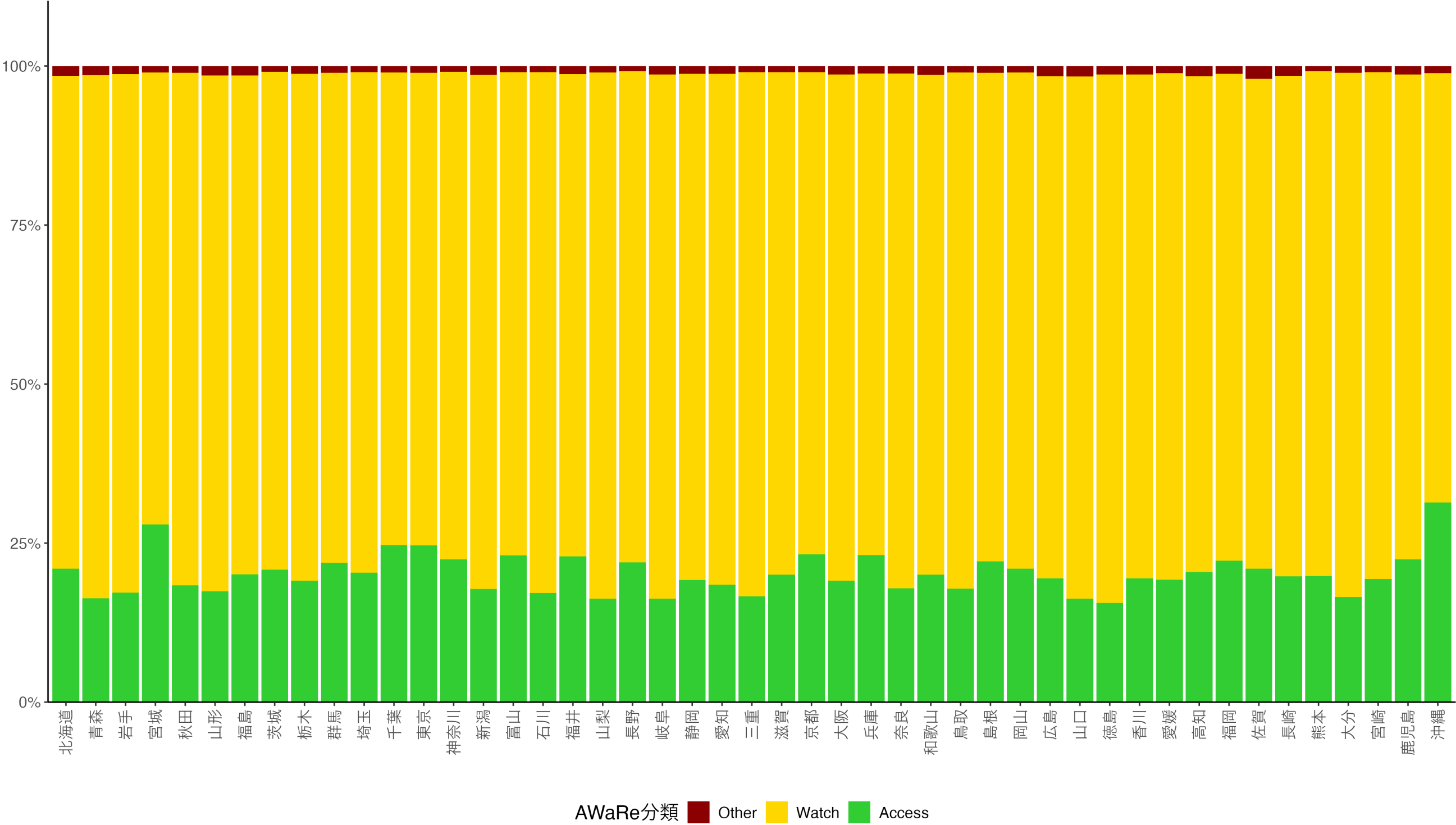
・令和6年度新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業（厚生労働科学研究費補助金）

薬剤耐性（AMR）アクションプラン2023-2027年の実行における課題解決のための研究（研究代表者：大曲貴夫）

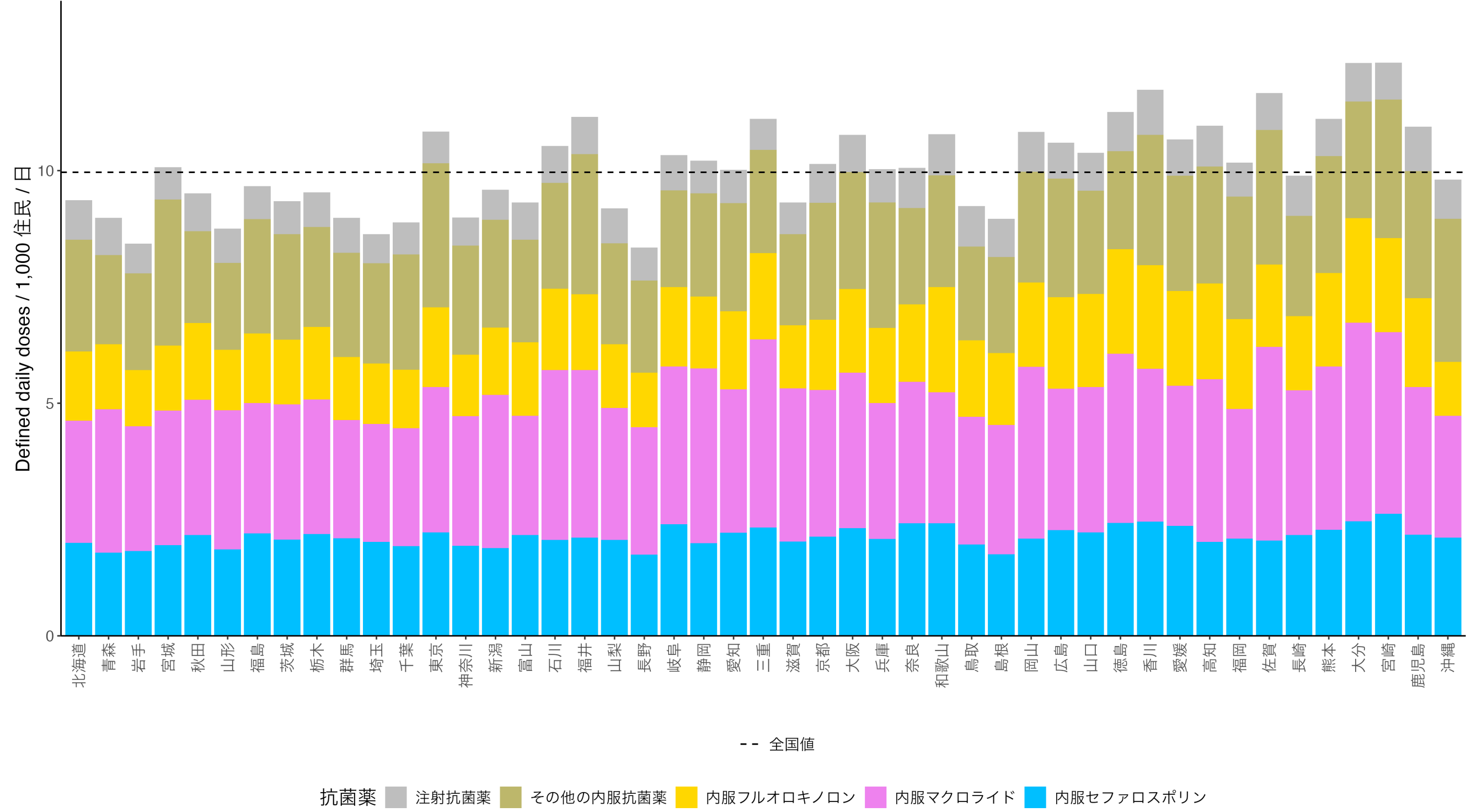
都道府県別 2021年 抗菌薬種類 (ATC3) による集計



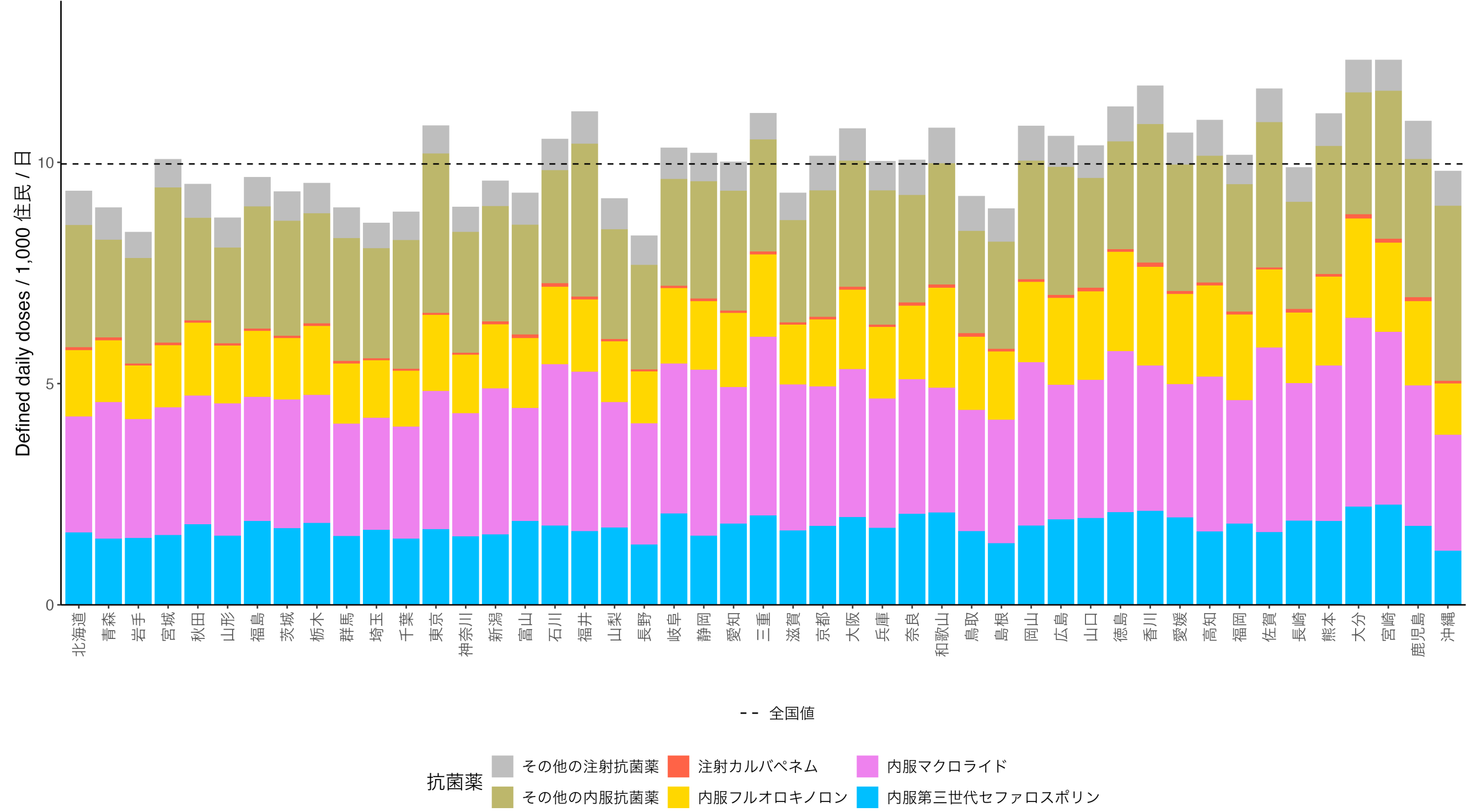
都道府県別 2021年 抗菌薬使用割合(%) AWaRe分類



都道府県別 2021年 抗菌薬種類 (AMR対策アクションプラン2016-2020成果指標) による集計

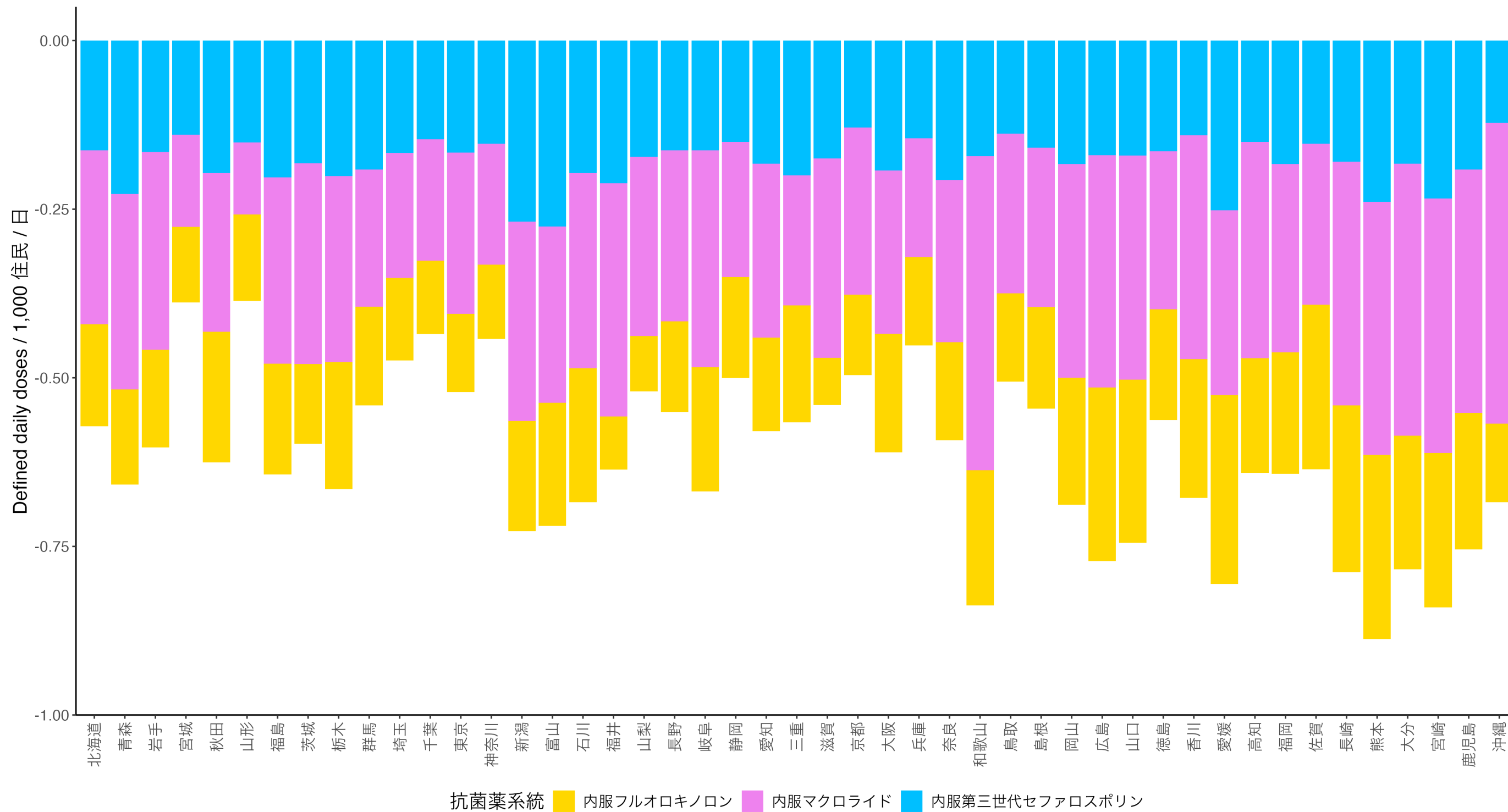


都道府県別 2021年 抗菌薬種類 (AMR対策アクションプラン2023-2027成果指標) による集計



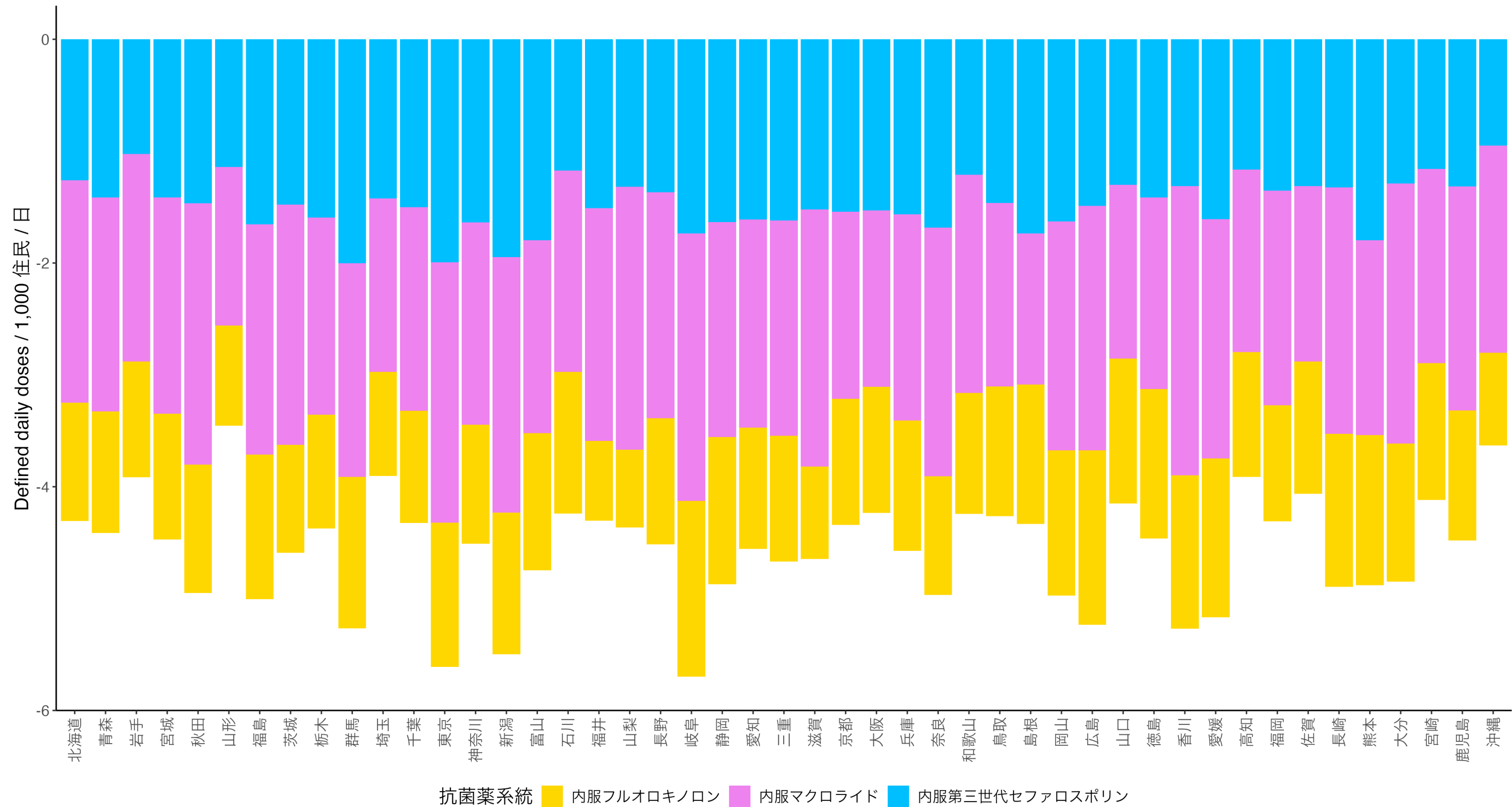
# 内服

2020-2021年 内服第三世代セファロスポリン・マクロライド・フルオロキノロン系抗菌薬 削減量

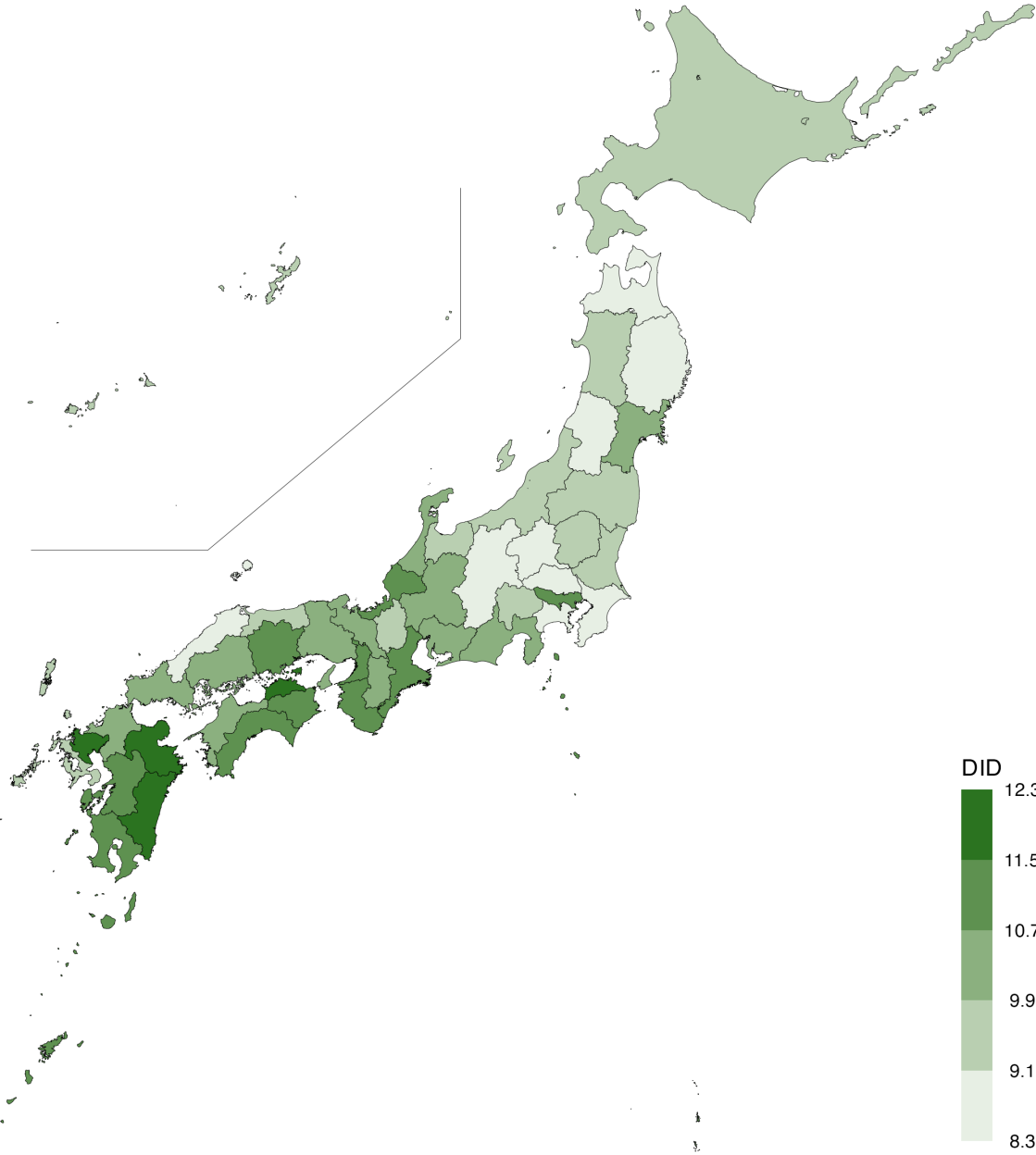


# 内服

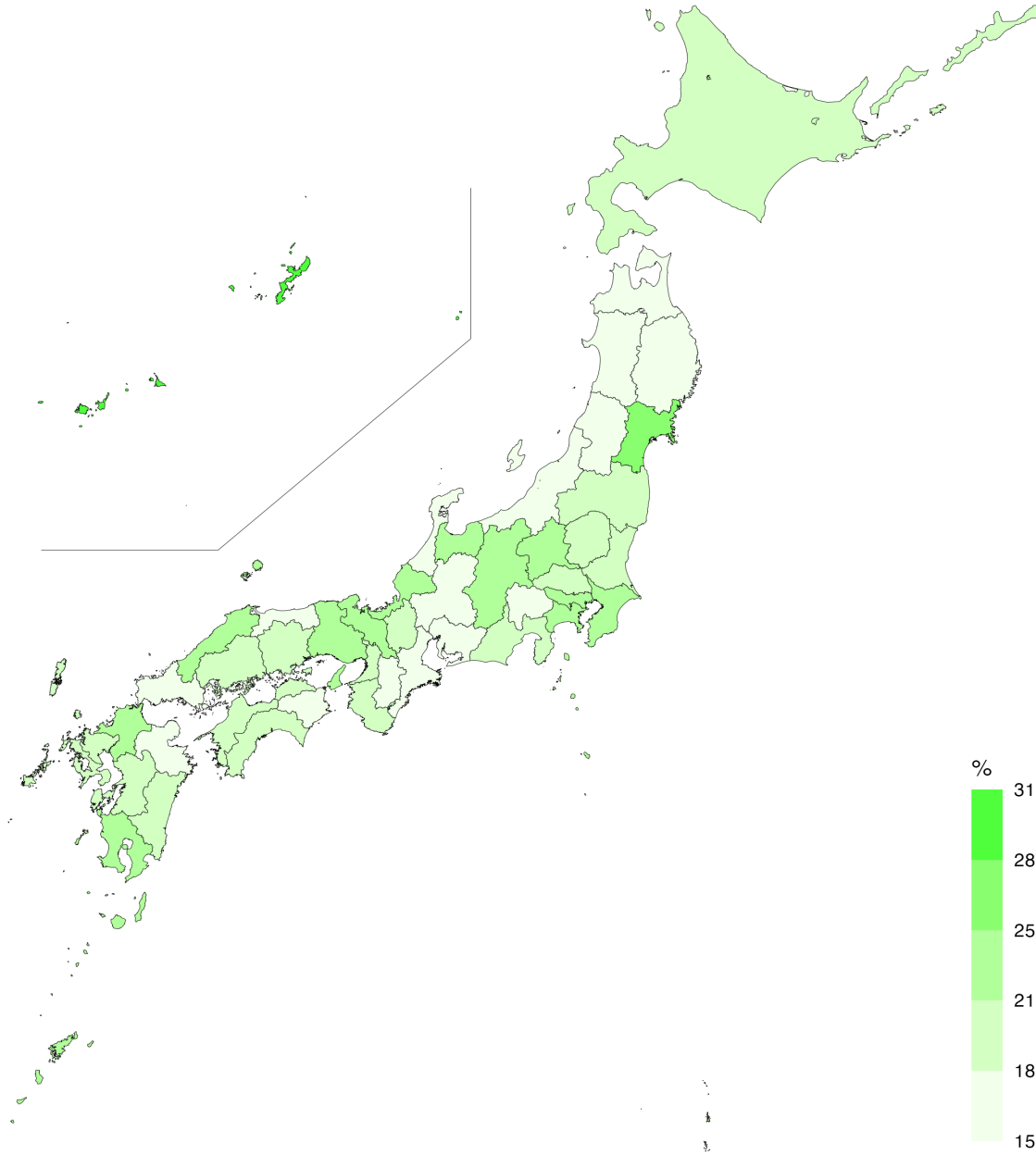
2013-2021年 内服第三世代セファロスポリン・マクロライド・フルオロキノロン系抗菌薬 削減量



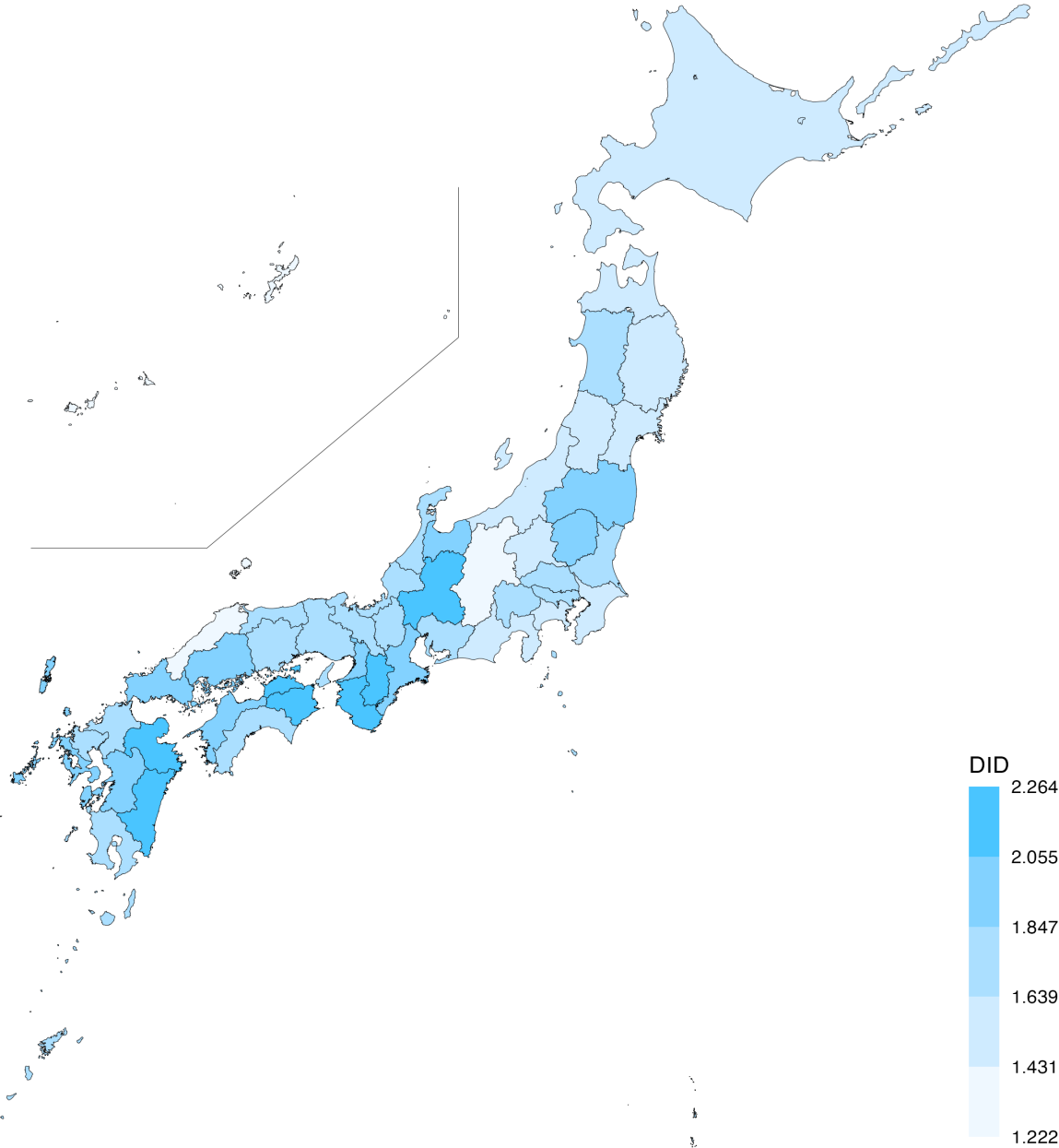
全抗菌薬



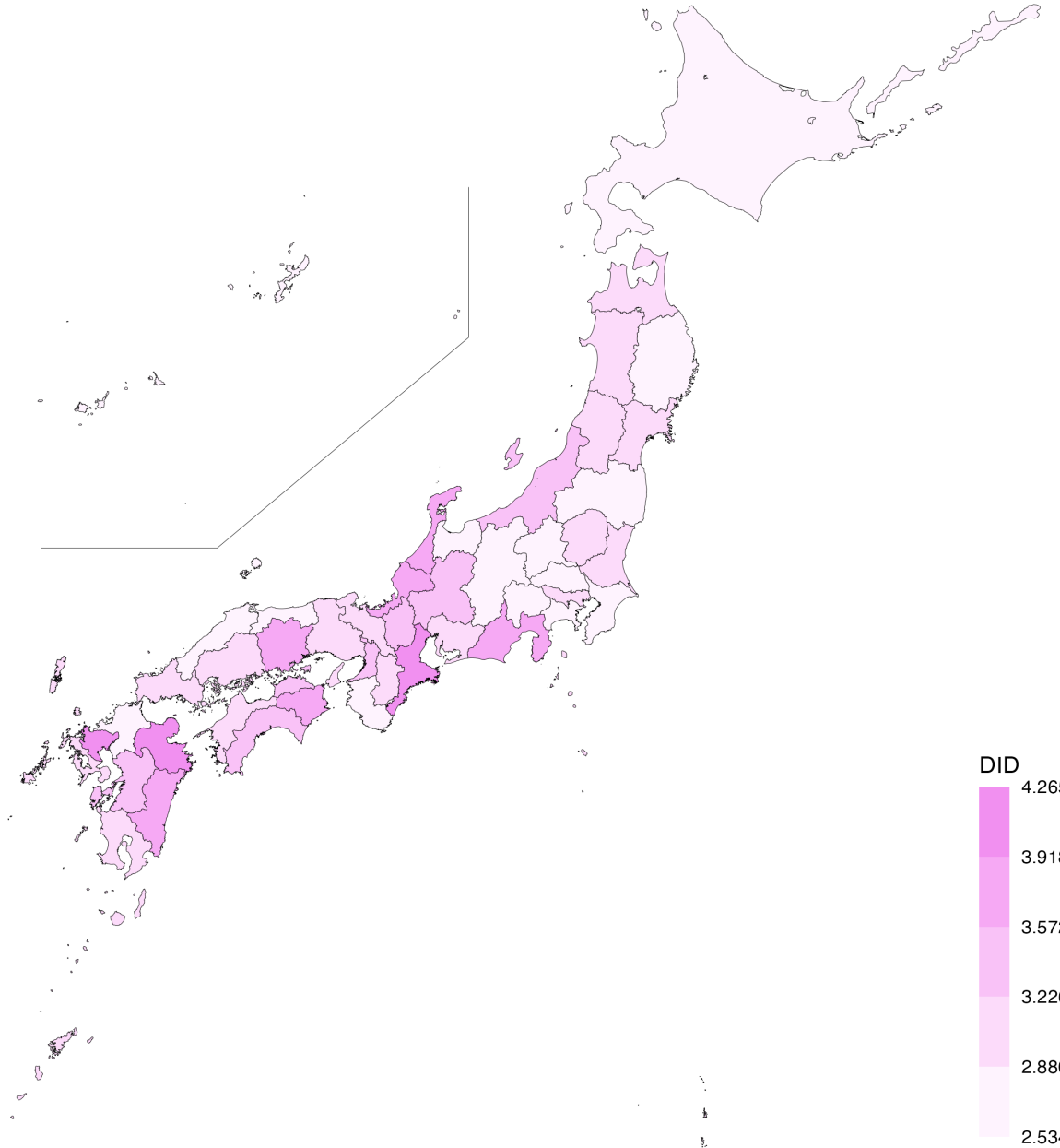
Access (%)



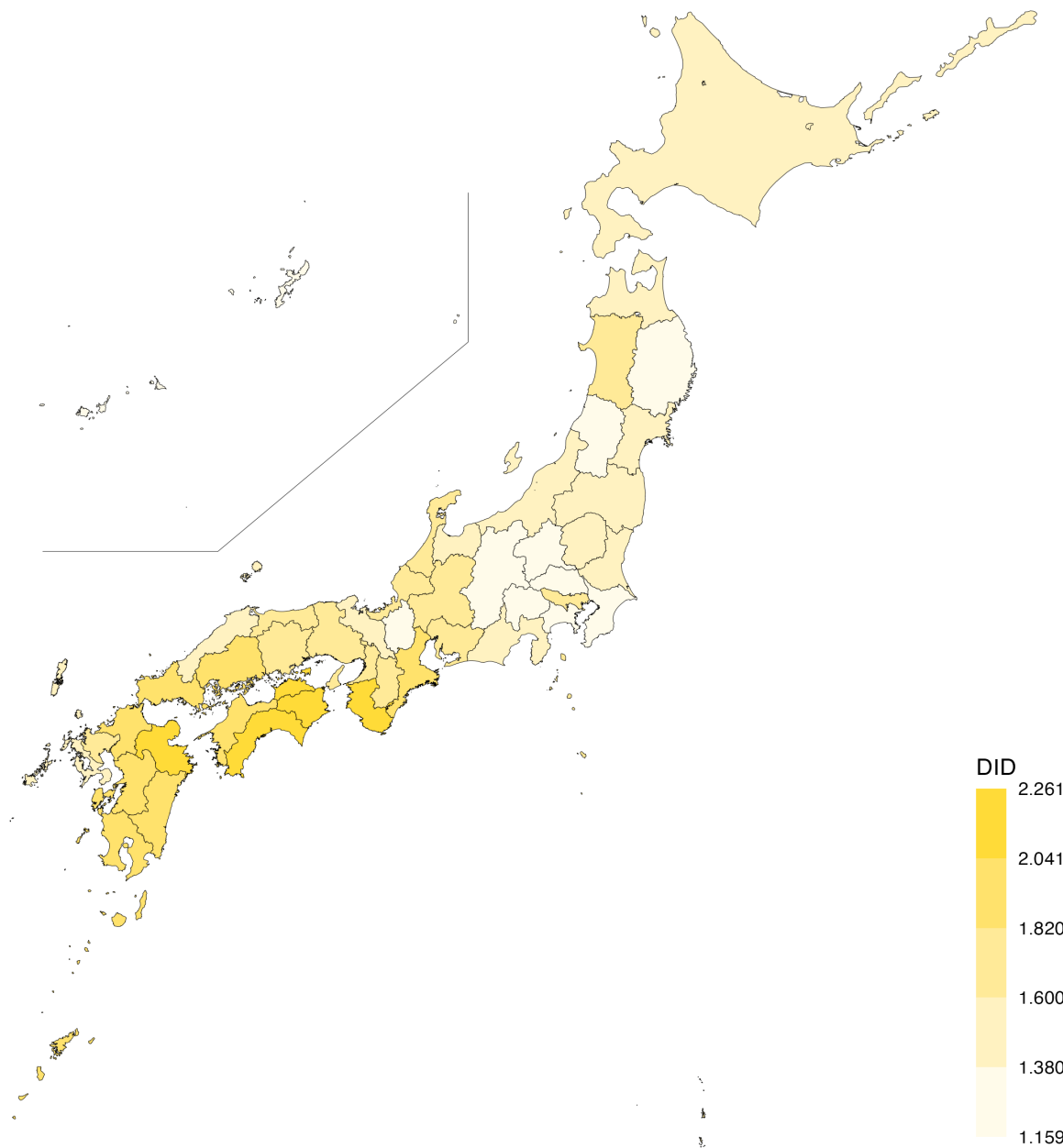
内服第三世代セファロスポリン



内服マクロライド



内服フルオロキノロン



注射カルバペネム

